

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 17 日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2014

課題番号：22330154

研究課題名(和文) 社会構造と「価値観」に関する実証的国際比較研究－「信頼感」との関連性を中心に

研究課題名(英文) Empirical Cross-National Study of Social Structure and Social Values &#8211;  
Focusing their relations with Social Trust

研究代表者

佐々木 正道 (SASAKI, Masamichi)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：30142326

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、フィンランドを加えた8カ国(日本、米国、ロシア、フィンランド、ドイツ、チェコ、トルコ、台湾)で実施した意識調査をもとに、「信頼感」と「価値観」の関連性について解明を行った。「価値観」に関する質問は、自身の生き方、法律の順守、善悪観、結婚・家族観、宗教心等についてである。重回帰分析の結果、「信頼感」についての互酬性と性善説が8カ国に共通して「信頼感」にプラスに影響していることが明らかとなった。また、「信頼感」の度合いを4段階にわけ、1と4段階において各国の「価値観」との関連について数量化分析を行った。その結果、「信頼感」の高低によって各国の「価値観」の配置に際立った特徴が見られた。

研究成果の概要(英文)：Based on surveys carried out among eight nations (adding Finland to the United States, Japan, Russia, Germany, the Czech Republic, Turkey, and Taiwan), this study attempted to determine relationships between trust and social values. Among some of the topics of the questions used in this study were one's own lifestyle, concern about social, political, and economic problems, opinions about reciprocity of trust toward others, human nature as fundamentally good or bad, abidingness, right and wrong, marriage, and religious beliefs. Using multiple regression analysis it was found that reciprocity of trust toward others and human nature as fundamentally good have a positive effect on trust. Also, using correspondence analysis, it was found that when comparing two levels of trust (i.e., the lowest and the highest among four levels) many of the social values have distinguishable characteristics to their configurations in Euclidian space among the eight nations for both levels of trust.

研究分野：社会学

キーワード：価値観 信頼感 国際比較研究 意識調査

## 1. 研究開始当初の背景

「信頼」の研究は、社会学の根幹となる課題であり、リスク社会が拡大する今日の急激な世界的変革の中で「信頼」の構築がますます重要となってきた。

我々はこれまでの研究(平成19~21年度(基盤(A))と平成22~26年度(基盤(B)))において、「信頼感」を多次限的に捉え、意識調査を8カ国(日本・米国・ロシア・フィンランド・ドイツ・チェコ・トルコ・台湾)で実施し、既存の「信頼感」尺度の有効性を検証し、「信頼感」と「価値観」の関連性の解明を行った。「価値観」についての質問には、社会・政治・経済問題への関心、所得格差、自身の生き方、自由に対する考え方、信頼感の互酬性、個人対公共の利益の重視、法律の順守についての考え方、外国人労働者の受け入れに対する賛否、善と悪についての考え方、結婚観、家族観、宗教心等との関連項目を使用し、『信頼感』にはリカート尺度を用いて主に重回帰分析とコレスポネンス分析を行った。

## 2. 研究の目的

我々が新たに構成した「信頼感」の尺度を用いて「価値観」との関連性を解明する。

## 3. 研究の方法

「信頼感」のレベル(高・中・低)の異なる8カ国を選び、それぞれの国において全国規模の意識調査を実施したデータを使用し「信頼感」に関する統計分析(主に重回帰分析とコレスポネンス分析)を行い「価値観」との関連性を「信頼感」の異なるレベルを比較検討する。

## 4. 研究成果

調査対象の8カ国(アメリカ、日本、台湾、ドイツ、ロシア、チェコ、フィンランド、トルコ)について、信頼感を説明できると思われる質問項目を用いて、我々が構成した信頼感尺度を従属変数として重回帰分析を行った。

その結果、8カ国に共通する信頼感への影響がプラスで統計的に0.05レベルで有意確率のある項目は、1)「たいていの人は他人から信頼された場合、同じようにその相手を信頼すると思う」と「たいていの人は、生まれつき善人と思う」の2項目であり、信頼感の互酬性と性善説ともいえるべき考え方があることが明らかとなった。

項目別に信頼感にプラスの影響がある国については、以下のとおりである。(ここでは、「思う」、「思わない」、「高い」、「低い」、「ある」、「ない」は、すべて「傾向にある」ことを意味する。)

「たいていの人は見つからなければ、料金を支払わないで映画館などに入るとは思わない」は、日本と台湾以外の6カ国である。

「たいていの人は、良心に照らしてというよりも、罰せられることを恐れて法律を犯すことをしないとしない」とは思わない」は、台湾、ドイツ、トルコ、チェコ、フィンランドである。

「政治の重要性の度合いは高い」は、日本、ロシア、チェコである。

「どれが信頼できる情報なのかわからなくなることはない」は、アメリカ、日本、ドイツである。

「社会問題への関心度は高い」は、アメリカとドイツである。

「子供の時、親の約束を守る程度は高かった」は、台湾とチェコである。

「今の生活への満足度は高い」と「家族の収入が高い」は、アメリカとドイツである。

「学歴の程度が高い」は、アメリカとチェコである。

「年齢が低い」は、チェコである。

「宗教の重要性の度合いは高い」は、日本である。

「経済問題への関心度は低い」は、ドイツである。

「友人や知人の重要性の度合いは高い」が「現在の職業や仕事の重要性の度合いは低い」は、ロシアである。

「家庭は、心地よく、くつろげる、ただ一つの場所であると思わない」が「自分の家庭への満足度は高い」は、フィンランドである。

「女性」は、日本である。

「ボランティアや他人への奉仕の重要性の度合いは高い」は、台湾である。

「収入の格差をもっと小さくすべきだ」は、アメリカである。

価値観の質的質問項目についてはコレスポネンス分析を実施し、信頼感の度合い(高低を4段階に分け、レベル1とレベル4を比較)と価値観の関連(ユークリッド空間における各国の布置について)を明らかにした。その結果において、信頼感の高低によって、各国間の価値観の相違が特に際立ついくつかの項目があった。

まず、法律に対する考え方についてである。信頼感の低い人は、「法律はどんなときにも守るべきである」がアメリカ、フィンランド、トルコで、「目的が本当に正しいものだと確信がもてるときには、法律を破ることもやむをえない」が日本、ドイツ、チェコ、台湾で支持される傾向がある。信頼感の高い人は、「法律はどんなときにも守るべきである」が、ドイツ、トルコ、ロシアで、「目的が本当に正しいものだと確信がもてるときには、法律を破ることもやむをえない」が、アメリカ、日本、台湾、フィンランドで支持される傾向がある。したがって、日本と台湾では信頼感の高低に関わらず、「目的が本当に正しいものだと確信がもてるときには、法律を破るこ

ともやむをえない」が支持され、アメリカとドイツでは信頼感の高低で法律に対する考え方が逆転する傾向が見られる。ロシアは信頼感の低い人が、そしてチェコは信頼感の高い人が、2つの考え方のどちらを支持する傾向なのかは明らかでない。

次に、今の生き方についてである。チェコとトルコを除いた6カ国において、信頼感の低い人は、「その日その日をのんきにクヨクヨしないで暮らす」がアメリカとフィンランドで、「仕事とプライベートのバランスの取れた生活」が台湾とドイツで支持される傾向が見られる。「自分を大切に生きる生き方」が、日本、ドイツ、ロシアに支持される傾向が見られる。信頼感の高い人は、「その日その日をのんきにクヨクヨしないで暮らす」、「目標に向かって努力する」、「他の人の考え方を尊重する」がアメリカとフィンランドで、「自分を大切に生きる生き方」が日本、ドイツ、ロシアで支持される傾向が見られる。したがって、信頼感の高低に関わらず、「自分を大切に生きる生き方」が日本とドイツ（両国は信頼感の高低に関わらず近くに布置する）、ロシアで、「その日その日をのんきにクヨクヨしないで暮らす」がアメリカとフィンランド（両国は信頼感の高低に関わらず近くに布置する）で支持される傾向が見られる。

次に、善悪の考え方についてである。信頼感の低い人は、「どんな場合でもはっきりとした善と悪があり、すべてに当てはまる」がアメリカ、日本、フィンランド（3カ国とも近くに布置する）、トルコで、「たいていの場合はっきりとした善と悪はなく、その時の状況による」がドイツ、チェコ、ロシア、台湾で支持される傾向が見られ、信頼感の高い人は、「どんな場合でもはっきりとした善と悪があり、すべてに当てはまる」がアメリカ、フィンランド、チェコ、トルコで、「たいていの場合はっきりとした善と悪はなく、その時の状況による」が、日本とドイツ（両国とも近くに布置する）、ロシア、台湾で支持される傾向が見られる。したがって、信頼感の高低に関わらず、アメリカ、フィンランドトルコで、「どんな場合でもはっきりとした善と悪があり、すべてに当てはまる」が支持される傾向が見られ、「たいていの場合はっきりとした善と悪はなく、その時の状況による」がロシア、ドイツ、台湾で支持される傾向が見られる。日本とチェコでは信頼感の高低とこの考え方の関連について逆転傾向が見られる。

次に宗教についてである。信頼感の低い人は、「宗教をもっている、信じている」がアメリカ、ロシア、トルコ、台湾で、「もっていない、信じていない」が、日本、ドイツ、フィンランド、チェコで支持される傾向が見られる。信頼感の高い人は、「宗教をもっている、信じている」がアメリカ、ロシア、トルコ、ドイツで、「もっていない、信じていない」が、日本、台湾、チェコ、ドイツ、フ

インランドで支持される傾向が見られる。したがって、信頼感の高低に関わらず、「宗教をもっている、信じている」が、アメリカ、ロシア、トルコで、「宗教をもっていない、信じていない」が、日本、フィンランド、チェコ（3カ国は近くに布置する）で支持される傾向が見られる。台湾とドイツでは信頼感の高低と宗教心の有無の関連について逆転傾向が見られる。

日本の特徴としては、信頼感が高い人は宗教を信じない傾向にあるが、宗教は重要であることとらえる傾向にあることが前述の重回帰分析とコレスポネンス分析の分析結果から明らかとなった。

次に、結婚観についてである。信頼感の低い人は、「離婚はすべきでない」が日本と台湾で、「ひどい場合は、離婚してもよい」がアメリカ、ドイツ、フィンランド、チェコ、ロシアで、「二人の、合意さえあれば、いつ離婚してもよい」が、トルコで支持される傾向が見られる。信頼感の高い人は、「離婚はすべきでない」が、日本、トルコ、台湾、チェコで、「ひどい場合は、離婚してもよい」がアメリカとドイツ（両国は近くに布置する）で、「二人の、合意さえあれば、いつ離婚してもよい」は、フィンランドとロシアで支持される傾向が見られる。したがって、信頼感の高低に関わらず、「離婚はすべきでない」が日本と台湾で、「ひどい場合は、離婚してもよい」が、アメリカとドイツで支持される傾向が、信頼感の低い人は、チェコとフィンランドで、「ひどい場合は、離婚してもよい」が支持される傾向があり、信頼感の高い人は、チェコでは「離婚はすべきでない」、フィンランドで「二人の、合意さえあれば、いつ離婚してもよい」が支持される傾向があり、信頼感の高低によって相違が見られる。

以上、2つの方法によって分析を行った結果、8カ国において信頼感に影響を与える価値観に関する項目と信頼感の度合い（高低の4段階のうち4と1を比較）との関連で際だった特徴について明らかになった点である。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計10件)

Yoshino, Ryozo. Trust of Nation  
---Looking for More Universal Values  
for Interpersonal and International  
Relationships. Behaviormetrika,  
Vol.42.No.2. 2015 ページ未定 査読有  
Yoshino,Ryozo, Shibai, K., Nikaido, K.,  
& Fujita, T. The Asia-Pacific Values  
Survey 2010-2014---Cultural Manifold  
Analysis (CULMAN) of National  
Character---Behaviormetrika,  
Vol.42.No.2. 2015 ページ未定 査読有

Sasaki Masamichi and Saito Tadashi. Measurement of General Trust: A Cross-National Analysis. 『中央大学社会科学研究所年報』第 19 号 2014:45-62. 査読無

Sasaki Masamichi. Parental Socialization and Experiences of Betrayal: Cross-National Analysis of Trust. Sociological Research. No.2, 2014:10-24. 査読有

佐々木正道 「信頼感と属性に関する国際比較」『中央大学 社会学・社会情報学』第 24 号, 17-31, 2014. 査読無

Sasaki, Masamichi, G.F.Romashkina and V.A. Davydenko. Cross-National Studies of Trust Based in Interpersonal Relationships. Sociological Research. No.3, 2013:60-73. 査読有

吉野諒三, 大崎裕子 「主観的階層帰属意識」, 「満足感」と「信頼感」- 社会調査における質問項目の尺度」『行動計量学』40 巻第 2 号 2013: 97-114. 査読有

森秀樹 信頼の三相とその相互作用 『中央大学社会科学研究所年報』, 17 巻: 81-96 2012 年 9 月. 査読無

Sasaki, Masamichi, V.Davydenko, Y.Latov and G. Romashkin, Trust as an Element of Social Capital in Contemporary Russia. Universe of Russia ROS PECHAT. vol. 19, No.2: 78-97, 2010. 査読有

Sasaki, Masamichi, Y. Latov, G. Romashkin and V. Davidebko. Trust in Modern Russia. Macroecomic Policy, Voprosy Ekonomiki No.2: 83-102, 2010. 査読有

[学会発表](計 5 件)

吉野諒三 「アジア・太平洋価値観国際比較」, 日本行動計量学会 42 回大会 東北大学 2014 年 9 月 3 日

吉野諒三 「「信頼感」から「生きがい」へアジア・太平洋価値観国際比較の関連データより」(招待講演) ソーシャル・キャピタル研究会 日本大学 2014 年 6 月 22 日

Sasaki, Masamichi. (基調講演) Current Status of Comparative Studies of Trust. International Scientific Conference: Business, Society and Human, ロシア国立研究大学・経済高等学院 (モスクワ) 2013 年 10 月 30 日

Sasaki, Masamichi "Trust: Cross-National Analysis," International Institute of Sociology(IIS) 2012 年 2 月 17 日 ニューデリー

Sasaki, Masamichi, "Trust: Comparative Perspectives." (招待講演) 中国社会科学院社会学研究所

2011 年 7 月 26 日

[図書](計 7 件)

Sasaki, Masamichi, J. Goldstone, E. Zimmermann, and S. Sanderson (eds.) Concise Encyclopedia of Comparative Sociology. Leiden, Holland and Boston, U.S.A. : Brill Academic Publishers, 2014. 681 ページ

佐々木正道 『信頼感の国際比較研究』(編著)中央大学出版部 2014. 312 ページ  
吉野諒三 稲葉陽二・大守隆・金光淳・近藤克則・辻中豊・露口健司・山内直人・ソーシャル・キャピタル:「きずな」の科学とは何か』ミネルヴェア書房、2014 年 246 ページ(共編著)

Sasaki, Masamichi, N.L.Dryakhlov, Ishikawa Akihiro et al. (eds.). Trust in Society, Business and Organization. National Research University Press. Moscow, Russia, 2013. 318 ページ

Sasaki, Masamichi and Robert Marsh (eds.) Trust: Comparative Perspectives. Leiden, Holland and Boston, U.S.A.: Brill Academic Publishers, 2012. 381 ページ

石川晃弘、佐々木正道、白石利政、ニコライ・ドリャフロフ(編著)『グローバル化のなかの企業文化』2012 年 400 ページ  
吉野諒三・林文・山岡和枝 『国際比較データの解析』朝倉書店 2010 年 224 ページ

## 6 . 研究組織

### (1)研究代表者

佐々木 正道 (SASAKI MASAMICHI)  
中央大学・文学部・教授  
研究者番号: 30142326

### (2)研究分担者

吉野諒三 (YOSHINO RYOZO)  
統計数理研究所・データ科学研究系・教授  
研究者番号: 60220711

安野智子 (YASUNO SATOKO)  
中央大学・文学部・准教授  
研究者番号: 60314895

矢野善郎 (YANO YOSHIRO)  
中央大学・文学部・准教授  
研究者番号: 70282548

首藤明和 (SHUTO TOSHIKAZU)  
兵庫教育大学・学校教育研究科・准教授  
研究者番号: 60346294

森秀樹 (MORI HIDEKI)  
兵庫教育大学・学校教育研究科・准教授  
研究者番号: 00274027

(2)連携研究者

田野崎昭夫 (TANOSAKI AKIO)  
中央大学・文学部・名誉教授  
研究者番号：90055062

石川晃弘 (ISHIKAWA AKIHIRO)  
中央大学・文学部・名誉教授  
研究者番号：80055178

林文 (HAYASHI FUMI)  
中央大学社会科学研究所客員研究員